

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
 (仮称)市営桜の宮住宅建設事業(2期)(C工区) C3敷地(南東棟)

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										4.0
Q1 室内環境							0.40		-	3.9
1 音環境						3.0	0.15	3.3	1.00	3.3
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音						3.0	0.50	3.7	0.50	
1 開口部遮音性能		Dr-50				3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		Lr-45				-	-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		Lr-50				-	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	4.0	0.20	
1.3 吸音						-	-	-	-	
2 温熱環境						-	0.35	4.0	1.00	4.0
2.1 室温制御						-	-	4.0	1.00	
1 室温						-	-	-	-	
2 外皮性能		日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当				-	-	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						-	-	-	-	
2.3 空調方式						-	-	-	-	
3 光・視環境						3.0	0.25	4.0	1.00	3.9
3.1 昼光利用						3.0	0.43	4.0	0.50	
1 昼光率		<住居部分>2.0%以上				-	-	5.0	0.50	
2 方位別開口						-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備						3.0	1.00	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						-	-	4.0	0.50	
1 昼光制御		カーテンと庇を組み合わせて昼光を制御している				-	-	4.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.21	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.36	-	-	
4 空気質環境						5.0	0.25	4.3	1.00	4.4
4.1 発生源対策						5.0	0.60	5.0	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆、VOCの放散量が少ない建材をほぼ全面的に採用				5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気						5.0	0.40	3.3	0.38	
1 換気量						-	-	3.0	0.33	
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/8以上				-	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		<共用部分>空気取入口は各種排気口と異なる方位で設置				5.0	1.00	3.0	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.5
1 機能性						4.1	0.40	4.0	1.00	4.0
1.1 機能性・使いやすさ						4.0	0.40	4.0	0.60	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		各住戸に100Mbitクラスのブロードバンドが利用可能				-	-	4.0	1.00	
3 バリアフリー計画		兵庫県「福祉のまちづくり条例」適合				4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						4.0	0.30	4.0	0.40	
1 広さ感・景観		天井高2.5m以上				-	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画		インテリアパースによる内装計画事前検証を実施				4.0	1.00	4.0	0.50	
1.3 維持管理						4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い建材の使用等				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		廃棄物のスペースを確保等				5.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.5	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		日本住宅性能表示基準.3.劣化の軽減に関する事において等級3相当				5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		フローリング:20年				4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な上位3種類の2種以上にBを使用し、Eは不使用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		光ケーブルなど通信多様化、精密機械を地下空間に設置していない				4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.2	0.30	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			-	-	3.6	0.50	
1	階高のゆとり	階高2.9m以上	-	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	構造材を傷めることなく修繕、更新できる。	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.5
1 生物環境の保全と創出		自生種の保全に配慮、植栽条件に応じた緑地づくり等	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		建物の色彩等のまちなみへの調和、植栽による良好な景観を形成	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	エントランス、EVホールにベンチを設置し、豊かな中間領域を形成	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	空地率を上げ、緑化を多くしている	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱により外皮熱負荷を抑制	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.78	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	設備毎の説明書に加え省エネに関する住まい方の説明を実施	5.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマなどに加えて、節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.9	0.60	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減		機械式継手等採用	4.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		バルコニー:ビニル床シート等	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		「躯体+木下地・LGS下地+仕上材」により分別が容易としている	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		シーリング材、ビニル床シート接着剤等	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	押出法ポリスチレンフォーム3種等	4.0	1.00	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率を抑制している	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		風下地域への風の通り道を遮らないよう配慮	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	雨水流出対策を実施	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車スペース、荷捌き用駐車施設の確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.7	0.40	-	-	
1	風害の抑制	風環境評価指標によるランク評価を行い、一部上のランクがある	4.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満たし、広告物照明は不採用	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	